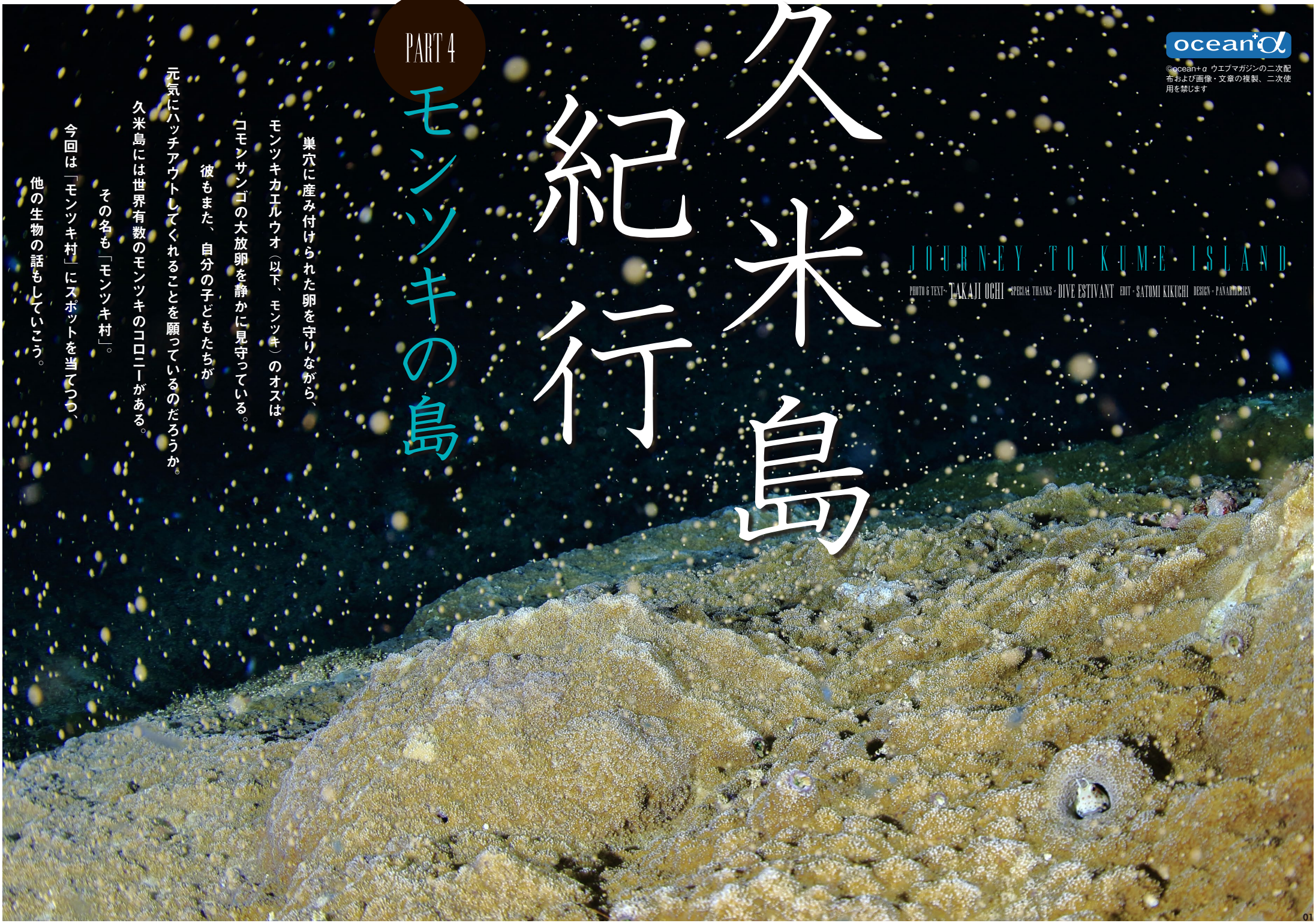


ocean+α
©ocean+α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

久米島紀行

JOURNEY TO KUME ISLAND

PHOTO & TEXT - TAKAJI OCHI - SPECIAL THANKS - DIVE ESTIVANT EDIT - SATOMI KIKUCHI DESIGN - PANAHDESIGN

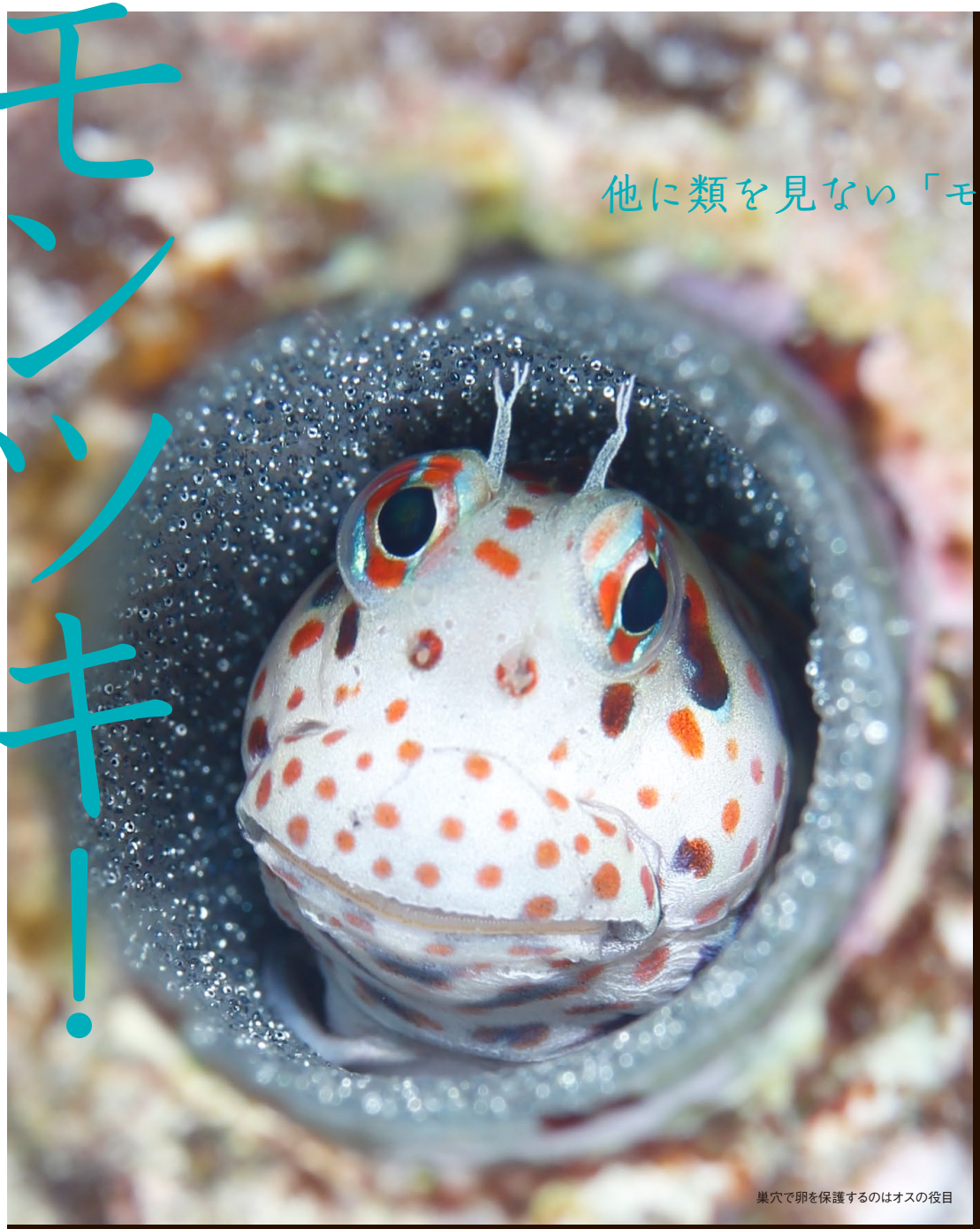
PART 4

モンツキの島

巣穴に産み付けられた卵を守りながら、
モンツキカエルウオ（以下、モンツキ）のオスは、
コモンサンゴの大放卵を静かに見守っている。
彼もまた、自分の子どもたちが
元気にハッチアウトしてくれることを願っているのだろうか。
久米島には世界有数のモンツキのコロニーがある。
その名も「モンツキ村」。
今回は「モンツキ村」にスポットを当てつつ、
他の生物の話もしていこう。

モンツキ！

他に類を見ない「モンツキ村」の魅力



巣穴で卵を保護するのはオスの役目

「14年前にこのポイントを見つけたことが、僕のガイド人生を大きく変えたんだ」。こう語るのは、ダイブ エスティバンのオーナーガイド、川本剛志さん。

少し大袈裟に聞こえるかもしれない。でも、ダイビングガイドとしてここまで言える何かを見つけられたことは、とても幸せなことなのではないだろうか。

そこまで言わせるポイントの名前は「モンツキ村」。先ほどの発言のイメージと異なり、滑稽な名前なように感じる。一体何がガイドにそこまで言わしめたのか。

その答えの前に、僕が初めて見たときに驚いたのはその大きさ。他の海で見るモンツキよりも優に一回り大きいことは一目瞭然だ。

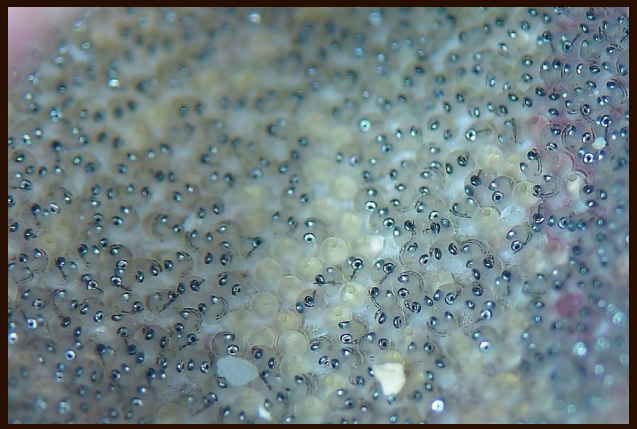
また、最初は紹介してもらった個体以外は目に入ってこなかった。だが、何度か連れて行ってもらううちに自分でも見つけられるようになり、1ヶ所に留まって目を凝らすと、浅いサンゴのリーフのあちこちで動き回る姿が目に入る。その数の多さに再び驚いたのだった。

おそらく潜り慣れたガイドが本気を出して1ダイブ探し続けたら、50個体以上は見つけられそうだ。ガイドでない僕が実際取材中に数えてみたところ、気に入った個体にかなり時間をかけていたり、浅場だったので2時間近く潜らせてもらったりという条件付きながら、20個体は見つけられた。

このサイズや個体数がどれだけすごいかは、他の海でモンツキを見たくてダイビングしたダイバーでないとピンと来ないかもしれない。かく言う自分も、何度か訪れて初めて「モンツキ村」のすごさを実感したわけだから。

01_このヒナギンポが他の海で見るモンツキの普通サイズ

02_比較して一目瞭然。とにかく久米島のモンツキはサイズが大きい



銀色の眼が見える卵は、その日の夜に孵化する予定の卵。白い卵は前日の夜に孵化した卵跡に翌朝、早速産み付けられた卵（撮影＝川本剛志）

©ocean+α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

オスがメスを巣穴に誘い込み、産卵と放精を行なっている瞬間（撮影＝川本剛志）

たくさんの幼魚がハッチアウトする瞬間（撮影＝川本剛志）

モンツキ！

メスへのアピールのため、婚姻色で体を真っ黒にして巣穴から飛び出る、オスのモンツキ

数が多くてサイズが大きいということは、それだけ観察しやすいということ。全身婚姻色で真っ黒になったオスが、メスにアピールして巣穴に誘い込むためにあちこちでジャンプを繰り返していたり、巣穴に産み付けられた卵を保護するオスの姿を観察できたり、タイミングが合えばハッチアウトも見られるかもしれない。

川本さんが「モンツキ村」でガイド人生が変わったという理由。それは、この環境でモンツキカエルウオという人気アイドルフィッシュの生態を簡単に観察し、ライフワークにできたこと。それが川本さんのダイビングスタイルを、小さな生物における生態観察のさらなる深みへと導いたのだった。

初めて一緒に潜ったとき、その知識の豊富さと、積み重ねた観察時間の長さが実感できた。それはエスティバンの若手ガイドたちにも確実に継承されている。

「モンツキ村」がガイド人生を変えた

ocean+α ©ocean+α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://dive-estivant.com
関連情報HPへ

ダイブ エスティバンのオーナーガイド、川本剛志さん

川本さんが語る、モンツキへの愛

「僕の大好きなギンポ・カエルウオの中でも、ダントツで大好きなのがモンツキカエルウオ。環境のおかげか、久米島では多くのモンツキが生息しています。北側のドロップオフのポイントはもちろん、南側の『モンツキ村』に行くと、ゲストでも自力で何個体も見つけられるぐらいの多さ。 白地に赤点模様の体色もかわいいし、求愛時の婚姻色も特徴的で、求愛ジャンプをしているときは見惚れるほどです。

モンツキは夜に雄親が卵を孵化させるのですが、それがまたおもしろくて。同じステージの卵でも、ある程度孵化させたら『残りは明日の夜にしよ!』みたいな感じで次の日に持ち越したり、通常の孵化の時刻が過ぎてもものすごく集中して孵化を促しているので、そのまま夜中まで3時間ぶっ通しで観察しても結局孵化しなかったり。クマノミなどとは違い、雄親もはっきりタイミングをわかっていない、いい加減さがまた笑えるんです。

目は口ほどに物を言う……ではないですけど、何と言っても両目で語るコミカルな表情が愛らしい久米島のスーパーマクロアイドルですね」

モンツキ!

巣穴に卵がびっしりと産み付けられ、見守っているモンツキ

コモンサンゴにできた穴を巣穴にして卵を守る、オスのモンツキ。上には2匹のカンザシヤドカリが顔を出す

©ocean+α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

久米島紀行

モンツキの島

久米島初発見も！レアなマクロも見逃せない

ここまで「モンツキ村」にスポットを当ててきたが、もちろんモンツキ以外にも愛くるしい生物はたくさんいる。今回、エスティバンの若手ガイドたちが、あちこちのポイントで探し出してくれたレアな生物たちを紹介していこう。

例年より、個体数が多いフリソデエビ。年に数回しか見つけられないという、ジャパニーズピグミーや、ユキンコボウシガニ。水温が上がるとなかなか見れなくなってくるガイコツパンダホヤ。まるで産まれたての赤ちゃんドラゴンみたいなタツウミヤッコの幼魚。そしてなんと言っても、恐らく久米島初発見となるシシマイギンポなど、サイズ的には極小サイズのレアなマクロ生物が目白押し。そんなかわいい生物たちを次から次へと紹介してくれた。

また、タイドプールでのダイビングにも力を入れていて、「風が強くて海に出られないようなときでも潜れるし、ハゼたちが結構頻繁にディスプレイしてくれて、見応えがあるんですよ」とのこと。

日本国内では八重山の海でしか出会えないオイランハゼや、パステルのブルーカラーが美しいネズスズメダイとの遭遇に感動。タイミングが良ければハゼたちがディスプレスする姿を目の前で見ることができ、タイドプールと言えど超穴場的なポイントだ。

マクロ！

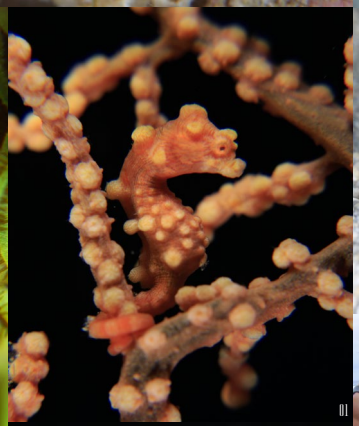
今年は個体数の多いフリソデエビ

05

04

03

一度は見たかったガイコツパンダホヤ。「トンバラ」にて



01

02

06

07

01_人気のピグミーシーホース　02_カイメンを被った姿が愛らしい、ユキンコボウシガニ　03_おそらく久米島初発見のシシマイギンポ　04_タイドプールにいる、ネズスズメダイの幼魚　05_年に数回しか見つけられない、ジャパニーズピグミーシーホース　06_オイランハゼは久米島でも数個体見つかっている　07_熱帯魚の家と呼ばれているタイドプール

ocean+α
©ocean+α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

人懐っこいアオウミガメの小太朗（メス）は健在

必見！

忘れてはいけない生物とポイントはこれだ！

昨年のウェブマガジンで大きく紹介したカメの小太朗（メス）。反響が大きく、多くの方からあれからどうなったのか聞かれるが、今も健在とのこと。今回は「モンツキ村」に時間をかけたので会いに行くことは叶わなかったけど、今でもフレンドリーさは変わらないとか。

また、久米島の豪快ワイド系ポイントの代表と言えば、なんといっても「トンバラ」。春先にはイソマグロの群れ、夏には抜けるような久米島ブルーの海、冬のシーズンにはハンマーヘッドシャークの群れなど、季節によって楽しめるものが変わってくる。エスティバンでは潮の流れを読み、ベストな流れでのダイビングを心がけている。

01_「ウーマガイ」や「シチューガマ」ではキンギョハナダイが群れる 02_鳥帽子岩のような「トンバラ」 03_潮の流れをチェックして、潜るポイントを決める 04_「トンバラ」の豪快な岩肌

©ocean+α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

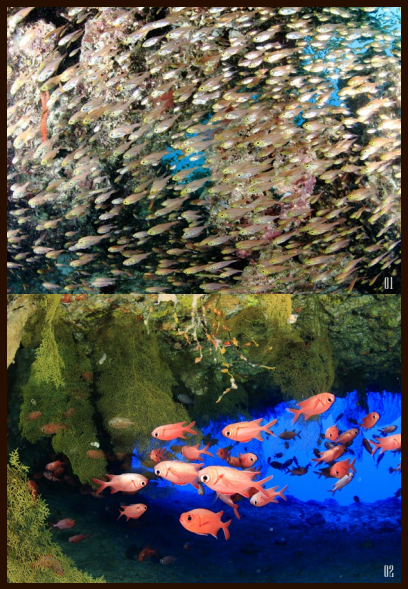
定番のギンガメアジの群れ

ブラックマンタも!? 冬に本領発揮する久米島

近場のポイント「イマズニ」では、ギンガメアジとオオメカマスの群れが簡単に見られる。また、今回サンゴの産卵直後にマンタ3匹に遭遇した。久米島のマンタシーズンはどちらかと言うと冬だが、自分は過去4回、夏前の取材で毎回マンタに遭遇している。今は夏のマンタポイントの開拓をしているという噂も。

ちなみに、ミクロネシア諸島のポンペイ島やニューカレドニアでは高確率で出会えるブラックマンタだが、日本で遭遇するのはなかなか難しい……。と思っていたのだが、どうやら久米島はそんなブラックマンタとの遭遇ができる国内でも珍しい海だった。多いときには一度に3個体目撃したこともあるそうだ。

実は夏場はもちろんのこと、久米島のワイドをより楽しみたいのであれば冬場もかなりオススメとのこと。マンタにハンマーヘッドの群れ、ザトウクジラなど、ワイドの本領を発揮するのだとか。まだ冬場に訪れたことはないのだが、ぜひ潜りに来て写真に収めたいと思っている。



01_根に群れるスカシテンジクダイ 02_ケーブの中には黄色いイソバナが群生し、赤いアカマツカサが群れる

サンゴの産卵時期、ブラックマンタを含む3匹のマンタに遭遇

ワイド!

国内ではレアなブラックマンタも、久米島では比較的高確率で見られるとか

©ocean+α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

インフォメーション！

新生エスティバン始動

新たに新人女性スタッフ2名が加わり、より華やかな雰囲気になったエスティバン。

サンセットダイブにBlack Water Dive®、サンゴの産卵、タイドプールでのダイビング、ホエールスイムなど、他のサービスではあまり提供しないようなメニューも多く、リピーターからの人気も根強い。ビギナーから上級者までオールマイティに楽しませてくれる。

2018年度のサンゴ産卵予定は7月29日～8月2日、8月28日～ 9月1日とのこと。

オーナーガイドの川本剛志さんは生態に対する追求心が強く、また、ダイビングガイド界で有名な「ガイド会」の会長も勤めている。

久米島随一の大型ボート（53フィート）と、小型ボート（40フィート）の2隻を所有。大型ボートにはシャワー、トイレ、お茶やコーヒーなども完備され、船上も快適だ。

DIVE ESTIVANT
ダイブエスティバン

〒901-3108 沖縄県島尻郡久米島町比嘉160-69
Tel.098-985-7150
http://dive-estivant.com

COLUMN

水中カメラマン
越智隆治の サンゴの産卵、撮影物語

表紙となったサンゴの産卵を見つめるモンツキカエルウオ。この写真は自分にとって思い出深い1枚になった。

サンゴの産卵も狙っていた取材中、沖縄本島及び離島のあちこちで産卵報告が一斉にSNSにアップされていた。しかもどこもかなり大規模に行われている様子。

そんな中久米島では、風や雨に阻まれなかなか産卵を観察することができずにいた。エスティバンのガイドたちと忸怩（じくじ）たる思いで他の島での産卵の報告を見ながら、一矢報いなくては……と連日スタンバイして撮影できたのが、コモンサンゴの産卵。岩にべったりと張り付いたコモンサンゴの産卵は、バンドルの放出は多かったものの、ミドリイシ系のサンゴと比べてイマイチ地味な感じになってしまう。

しかし、そのマイナス要素があったからこそ、モンツキと絡めて撮影するという手段を考え出すことができたのだ。

エスティバンのガイドたちの努力のおかげでこの撮影ができたことは、今回の取材の一番の思い出になった。

ocean+α ©ocean+α ウエブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://dive-estivant.com
Back 関連情報HPへ